



1 インドネシアの学生と交流



来年度、情報テクノロジー大学校に入学予定の4人の学生

11月25日(火)～28(金)まで、本校の榮智徳課長ら3人がインドネシア教育大学を訪問し、大学間の連携強化について協議し、来年度入学予定の4人の学生と交流を深めてきました。

本校の学校紹介を行った榮課長は「学生は、日本や大学校の説明に熱心に聞き入ってくれおとなしく素直」と感想を話していました。来年度入学予定の、アカさんは「日本でのインターンシップの経験もあり、日本へ行くのが楽しみ」と笑顔で話していました。

本年3月に、本校を卒業したインドネシア留学生のディアナさん(就職先: 株式会社ユードム)とシハブさん(就職先: アステモ株式会社)は優秀な成績で卒業し活躍しています。スシ教授らは「安定した生活のため、日本での就職を希望する学生が多い」と話していました。



インドネシア教育大学



本校を卒業した(左から)ディアナさん、シハブさん

2 情報担当の先生方に紹介



高教研・情報部会秋季研修会の様子

茨城県高教研・情報部会秋季研修会が11月7日(金)、県立下館第二高等学校で開催され、来年度開校する情報テクノロジー大学校の紹介を行いました。出席者からは「全国的にも情報に特化した大学校は珍しい」、「立派な新校舎が建設されている」、「授業料も比較的安い」との声がありました。

3 『記事トレ』紹介

本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

＜記事トレ＞読売新聞(2025年11月9日)

AIデータ施設 大号令

米は民間、中国は国家主導

◇要約

●渡邊正史さん(水戸葵陵高卒)

米国は、民間企業主導でAI需要に対応するためのデータセンターを拡大整備している。中国は、国家主導で大規模インフラを計画的に進めている。米中間で激化するAI覇権争いは、技術を巡る「冷戦」に発展する可能性が高まっている。

◇感想

●大森鋼刃さん(太田一高卒)

AIが国の力を左右するほど重要になっていることに驚いた。

民間と国家、それぞれの強みがあるが、日本も世界の流れに遅れずに技術を強化する必要があると思う。安全で公平なデータ活用の仕組み作りが大切だと感じた。

●横須賀咲汰さん(水戸葵陵高卒)

これからはAIを知り使えるかによって世界が変わってしまう程、重要となっている。

それに対応するため、普段からAIに触れることや、その仕組みを学ぶことが生きていくための重要な力ギとなると思う。

●相田泰我さん(水戸商高卒)

データセンターの国家競争と、米中間のデータ主導権争いが激化している。各国のデータの囲い込み戦略は、今後のITインフラと国家戦略を考える上で重要となる。

日本もデータ戦略や人材育成を、急ぐ必要があると再認識した。

●新里翔和さん(石岡商高卒)

労働力がAIに置き換えられることを知り、人の仕事が時代の変化とともに、減少していることを知った。しかし、AI活用が増えるということは、エンジニアの仕事が増える事なので有難いと思った。更に学びを深めたい。

●須藤来全さん(中央高卒)

AIの発展で国家レベルの戦略と企業の構造変化を同時に引き起こしていることを強く感じた。単なるAI開発競争ではなく、データセンターが、国の安全保障に直結する新たなインフラだと感じた。

